

なし

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露	地				開 花					■			
									収 穫				
黒	星	病			—	—	—	—	—	—	—	—	—
赤	星	病			—	—	—	—	—	—	—	—	—
輪	紋	病			—	—	—	—	—	—	—	—	—
カ	イ	ガ	ラ	ム	シ	類							
カ	メ	ム	シ	類									
ア	ブ	ラ	ム	シ	類								
ハ	マ	キ	ム	シ	類								
シ	ン	ク	イ	ム	シ	類							
ハ	ダ	ニ	類										
ニ	セ	ナ	シ	サ	ビ	ダ	ニ						

黒星病

留意事項

- 1 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。
- 2 QoI剤<< 1 1 >>、SDHI剤<< 7 >>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 被害葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発芽前に下記の薬剤を散布する。
 - ・石灰硫黄合剤 <—> 【7倍 発芽前／—】
- 4 4月上旬から下旬に下記の薬剤を散布する。
 - ・デランフロアブル 劇 <M 9 > 【1000倍 60日／4回】
 - ・チオノックフロアブル <M 3 > 【500倍 30日／5回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ベンレート水和剤 < 1 > 【2000～3000倍 前日／4回】
 - ・パレード15フロアブル << 7 >> 【2000～3000倍 前日／2回】
 - ・ファンタジスタ顆粒水和剤 << 1 1 >> 【3000～4000倍 前日／3回】
 - ・スコア顆粒水和剤 < 3 > 【2000～4000倍 14日／3回】
- 6 収穫後に下記の薬剤を散布する。
 - ・ICボルドー48Q <M 1 > 【30倍 収穫後～開花前／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

赤星病

留意事項

- 1 ビヤクシン類が周囲に多いと発病が多い。
- 2 SDHI剤<<7>>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 感染期（4月上～下旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [デランフロアブル](#) 劇 <M9> 【1000倍 60日/4回】
 - ・ [チオノックフロアブル](#) <M3> 【500倍 30日/5回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【2000～4000倍 前日/3回】
 - ・ [アンビルフロアブル](#) <3> 【1000～2000倍 7日/3回】
 - ・ [フルーツセイバー](#) <<7>> 【1500～3000倍 前日/3回】
 - ・ [パレード15フロアブル](#) <<7>> 【2000～3000倍 前日/2回】

輪紋病

留意事項

- 1 軟腐症状を伴う輪紋病斑を生じる。枝幹にはいぼを形成する。
- 2 落弁後から7月にかけて降雨が多いと多発する。
- 3 QoI剤<<11>>、SDHI剤<<7>>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 せん定時にいぼ多発枝をせん除し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベルコート水和剤](#) <M7> 【1000～1500倍 14日/5回】
 - ・ [デランフロアブル](#) 劇 <M9> 【1000倍 60日/4回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【2000～3000倍 前日/4回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) <<11>> 【3000～4000倍 前日/3回】
 - ・ [パレード15フロアブル](#) <<7>> 【2000～3000倍 前日/2回】

カイガラムシ類

留意事項

- 1 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

の間隔をおいて散布する。

- 2 アプロード水和剤は若齢幼虫発生期に散布する。
- 3 なるべく天敵への影響の少ない薬剤（アプロード水和剤）を散布する。

防除方法

- 1 休眠期（12月～3月上旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>
 - 【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) カイガラムシ 16～24倍 ー／ー】
- 2 発芽前に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7～10倍 発芽前／ー】
- 3 第1世代幼虫発生期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4 A> 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) <4 C> 【1000～2000倍 前日／3回】
 - ・ [アプロード水和剤](#) <1 6> 【カイガラムシ類幼虫 1000倍 30日／2回】

カメムシ類

留意事項

- 1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて早めに防除する。
- 2 ピレスロイド剤<3 A>を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) <4 A> 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [テッパン液剤](#) <2 8> 【2000倍 前日／2回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 発芽展葉期の防除に重点を置く。
- 2 ピレスロイド剤<3 A>を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【2000～3000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9 B > 【4000倍 前日／3回】
- ・ [トランスフォームフロアブル](#) < 4 C > 【2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000～4000倍 14日／2回】

ハマキムシ類

留意事項

- 1 幼虫が果実の表面をなめるように食害したり、葉2～3枚を重ね合わせるほか、新梢の先端を巻いたり、綴る等の被害を出す。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [ディアナWDG](#) < 5 > 【5000～10000倍 前日／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) < 2 8 > 【4000倍 前日／2回】
 - ・ [ダイアジノン水和剤34 劇](#) < 1 B > 【日本なし 1000～1500倍 14日／6回】

シンクイムシ類

留意事項

- 1 果実に食入するシンクイムシ類にはナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、ナシマダラメイガなどがある。
- 2 ピレスロイド剤< 3 A >を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

防除方法

- 1 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A > 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤 劇](#) < 4 A > 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【2000～3000倍 前日／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) < 2 8 > 【4000倍 前日／2回】
 - ・ [ダイアジノン水和剤34 劇](#) < 1 B > 【日本なし 1000倍 14日／6回】

ハダニ類

留意事項

- 1 葉がかすり状になってからでは手遅れであるため、早期発見に努める。
- 2 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

間隔をおいて散布する。

- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 休眠期(12月～3月上旬)に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [機械油乳剤95](#) <UNM> 【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) ハダニ類及びその越冬卵 16～24倍 -/-】
- 2 発芽前に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7～40倍 発芽前/-】
- 3 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モベントフロアブル](#) <23> 【2000倍 14日/3回】
 - ・ [スターマイトフロアブル](#) <25A> 【2000倍 前日/1回】
 - ・ [マイトコーネフロアブル](#) <20D> 【1000～1500倍 前日/1回】
 - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【1000～1500倍 前日/1回】
 - ・ [ダニコングフロアブル](#) <25B> 【2000倍 前日/1回】

ニセナシサビダニ

防除方法

- 1 せん定枝は4月までにほ場外に持ち出し処分する。
- 2 休眠期(12月～3月上旬)に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [機械油乳剤95](#) <UNM> 【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) サビダニ 16～24倍 -/-】
- 3 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【2000～3000倍 前日/3回】
 - ・ [モベントフロアブル](#) <23> 【2000倍 14日/3回】
 - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【1000倍 前日/1回】
 - ・ [カネマイトフロアブル](#) <20B> 【1000倍 前日/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。